



天然記念物

ひらとこかいそうさんしゅつかいるいかせき

1 2. 平床貝層産出貝類化石 5,397点（137種類）

■指定年月日 平成16年11月30日（2004）

■所有者 珠洲市

■所在地 蛸島町1-2-563（珠洲焼資料館）

「平床貝層」から産出した化石の解析により、当時の貝類の生態や堆積環境などが明らかになった。種名まで判明できたものは、二枚貝55種、巻貝57種、掘足類1種の計113種である。

この中で温帯系種に属するものは過半数を超えており、特にキクザルガイ、マツヤマワスレ、ハネガイ、イタヤガイ、シドロガイ、ミミエガイなどは、産出頻度からみて「平床貝層」の特徴的種類といえる。さらに、現在は主に九州以南に分布するコシロガイ、シラスナガイ、フドロなど亜熱帯系種のもの、マルミミエガイ、コケゴロモなど熱帯系種のを合わせると大半が暖流系種であった。寒流系種はエゾキンチャク、シロガイなどわずかしか産出

されなかった。

このことから、「平床貝層」は現在よりも強く対馬海流の影響を受ける、温暖な海洋環境下にあったと思われる。また、産出したものは潮間帯下部から浅海带上部の生息種が多かったことから、当時は水深20mくらいまでの遠浅の海で、砂底に岩礁が散在する海底であったと推定される。

調査対象になった貝類化石については、いずれも古生物相・古環境・古気候の変遷など教育・研究上の資料として、全国的にみて極めて貴重であり、文化財的価値も高い。